

オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

Connect



帯広市立豊成小学校
プロジェクト通信

メンター
メンティ

外国語

キャリア

体力向上

平成 30 年 12 月 5 日
NO.13 文責 小林

キャリア

一番大切なものに携われる喜び



11月29日(木)、齋藤農場の齋藤一成さんをお招きして、出前授業をして頂きました。齋藤さんをはじめとする豊成小学校に来て下さる農家の方々は、食に携わる者としての責任やプライドをしっかりとって、安全で美味しい作物を消費者へ提供しようと日々努力をされている方々ばかりです。お忙しいにもかかわらず、こうやって足を運んで下さるのは、そういう思いを子どもたちに伝えることで、十勝の農業やこの環境に誇りを持ち、地元の魅力を道内外に発信できる大人になって欲しいという願いをもっておられるからです。

授業の冒頭では、まず、農業というものは、自分一人の働きで成立する者ではなく、たくさんの方々の協力があって成り立っているのだとお話

されていました。よい畑にするための暗渠(あんきょ)を建設関係の方々に、作った作物を販売するためには、農協の方々に、より多くの人に食べてもらうためには、運搬業者の方々に協力して頂かなければならないと話す齋藤さんからは、感謝の気持ちとその協力に応えようとする熱意のようなものを感じました。また、「農業は食という一番大切なものに携わることのできる素晴らしい仕事」であり、「誰かのために役に立っている喜びを感じることでできるやり甲斐のある仕事」だということを熱く語っておられました。自身の仕事に誇りを持ち、周囲への感謝を忘れない姿勢に、子どもたちは仕事や人との向き合い方をしっかりと感じる事ができたと思います。

最後に今後の夢を聞かれて、「作った小麦を直接パンやさんに卸したい。」とおっしゃっていました。「安全で美味しい十勝の小麦でパンを作りたい!」と願う本物の職人さんの熱い思いに応えるため、これからも努力を続けていくそうです。

～子どもたちの感想より～

ぼくは、「みんながいて農業がある」という言葉にとっても感動しました。ぼくの周りにもお母さんがいて、お父さんがいて、友達がいて、みんながいて、ぼくがいるということを改めて考えるきっかけになりました。十勝は、農業が栄えていて、とてもよい環境でぼくは生まれたんだなと思いました。ぼくも将来の夢を叶えたら、齋藤さんのように真剣に好きな仕事をがんばります。
(1組男子)

私は、齋藤さんの「仕事は大変だけど楽しいし、やりがいがある。」という言葉がとても心に残りました。私が初めて知ったことは、土にとってもこだわっていることです。私は、土にこだわらななんてすごいなあ、でも、それだけ美味しくていい物をつくっているんだなあと思いました。お話を聞いて、大変なことがあっても一生けん命努力し、それが楽しくやり甲斐のあることに変わるといいなあと思いました。
(2組女子)

私には、心に響いた言葉がありました。それは、「十勝で生まれ育ったことに誇りをもって生きる」という言葉です。私は、最初もう少し都会で生まれ育ちたかったなと、ずっと思っていました。この言葉を聞いてから「十勝は素晴らしいところなんだ!」と思うようになりました。十勝は、食べ物が美味しくて最高です。齋藤さん、ありがとうございます!
(3組女子)